

こんちきジーズ ～祇園祭から学ぶ持続可能性。SDGs の先へ～

1. 企画背景

「こんちきちん」の祇園囃子を聞くと京都の夏を思い浮かべるように、祇園祭は京都三大祭りの一つとして有名である。祇園祭は、『祇園本縁雑実記』に 869（貞観 11）年に始まったとあり、それから数えて 2019 年は創始 1150 年に当たる。時代に合わせた変化を伴いながらも全国・全世界の平和や安寧を祈り、災害への鎮魂や自然への畏敬の念を携えて続けられてきた。

他方、2015 年に国連が採択した「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals; SDGs）」は近年、産官学を問わず非常に注目されており、社会の持続可能性を議論する上で重要な観点となっている。折しも、京都市は「SDGs 先進度」の総合評価で全国首位の自治体に選ばれた（日経リサーチ、2019 年）。しかし、市民の間で SDGs の概要やねらいは十分に理解・賛同されているとは言えない。

そこで、祇園祭創始 1150 年に際し、京都市と、京都大学の学生・教職員等から成る「エコ～るど京大」が協働し、SDGs や祇園祭の基本について学び、本質について話し合い、そこから SDGs（2030 年という年限や 17 の目標）を超えた持続可能性について考えるきっかけとなるような記念プロジェクトをスタートさせる。

2. 企画趣旨

本プロジェクトの主な目的は、祇園祭の理念を再認識し、その価値を広く発信するとともに、祇園祭から学んだことを基に持続可能性・SDGs について考え、これからの千年に向けた暮らし方や心のあり方について議論し、SDGs（2030 年という年限や 17 の目標など）を超えて持続可能性について検討することである。

祇園祭は、京都市民が様々な形で関わることにより成立しており、人々の暮らしや心と密接に関係しているものである。他方、SDGs は、後発開発途上国だけではなく先進国の問題をも含み、現代社会における複雑な社会課題群を分かり易く整理したものとして注目されているが、暮らしや心、文化を継承するというような観点は十分に含まれていない。以上の点を踏まえて、産官学・市民を含む様々なステークホルダーが参加できる形で、祇園祭から学んだことを基として人々の暮らしや心の観点から、持続可能性・SDGs に関する議論を展開し、持続可能性・SDGs の理念と意義を考え、SDGs をアップデートするための提案を行う。

社会や環境、人々の暮らしとも深く広くつながる祇園祭には、持続可能性を考えるための多くの視点が秘められている。本プロジェクトを通して、祇園祭の理念を再認識し、その価値を広く発信すること、また、持続可能性・SDGs について京都市民に知ってもらい、皆でその今後の展開について考えることを目指す。

3. 2019 年度の到達目標

なお、スタート年である 2019 年度は、次のような成果を目指したいと考えている。

- 1) 京都市民及び祇園祭関係者・ファン（来訪者を含む）の間において、祇園祭の理念及び SDGs の概要・理念の理解を浸透させる。
- 2) 産官学からの参加者によるグループワークを経て、京都や祇園祭、SDGs などの今後の在り方を考えるための視座や提案を得る。
- 3) SDGs の 17 目標を超えた目標（18 目標以降）についてのアイデアを得る。

4. 2019 年度のグループワーク参加主体（3.の 2）に該当）

今年度のメイン企画であるグループワークメンバーとして、①大学生・院生 3～4 名と、②企業社員 1～2 名がグループ（約 20 グループ）を構成し、本プロジェクトを通して調査・提言を行う。

①京都市内の大学・大学院に在学又は京都市内に在住の大学生・院生（約 80 名）

②京都の企業社員（約 30 名）

③サポーター

グループには属さずに、プロジェクトメンバーの活動を支援する市民の方々を広く募集する。サポーターはリスト化し、メールマガジンにより情報や支援の要請を発信できるようにする。

④アドバイザー

祇園祭に深くかかわっておられる方や祇園祭に造詣の深い方、及び、持続可能性・SDGs に関する専門家にアドバイザーとして参画していただき、本プロジェクトの要所でアドバイスをいただく。

5. 企画内容

1) 祇園祭の理念及び SDGs の概要・理念の浸透

祇園祭の理念及び SDGs の概要・理念をコンパクトにまとめた各種媒体を準備し、協力・支援・協賛団体の協力を得て、広く発信し、浸透を図る。特に、18 個目の目標を考えてもらうような応募キャンペーンを展開することで、SDGs についての学びや考察を促すこととする。

発信媒体例：

- ・新聞、コミュニティー誌、雑誌等
- ・祇園祭で配布する団扇やビラ等
- ・ポスター（公共施設、商業施設等）
- ・車体等
- ・WEB、SNS 等

2) 祇園祭及び SDGs の探求

まず、大学生・院生と企業社員がグループを構成し、グループごとに設けたテーマに沿って学習・調査を行う。個人での資料収集及びグループでのフィールド調査を通じて、祇園祭を持続可能性・SDGs の観点から考える。

次に、祇園祭から学んだことに基づいて持続可能性・SDGs について議論する。

最後に、次の千年を見据えながら今後の祇園祭や京都、日本、世界のあるべき姿を検討し、発信を行う。

○「これまでのこと」

祇園祭の特色を、過去千年間にわたる社会や人々の暮らしや考え方の変遷を通して理解する。

具体的には、祇園祭に携わる様々な人々への訪問やヒアリング調査等をもとに学習を行う。祇園祭の特色を理解する助けとなるように、国内外の祭礼行事／文化の優良事例や課題についても可能な限り比較を行う。

○「今のこと」

考察した祇園祭の特色を踏まえて、持続可能性・SDGs（17 目標・169 ターゲット）について、世界の環境問題や様々な社会課題を踏まえながら学び、持続可能性・SDGs についてどのような議論がなされているかを知る。また、これらを通して、祇園祭の特色を持続可能性・SDGs の切り口から整理する。

○「これからのこと」

祇園祭の現状の姿について持続可能性・SDGs の観点から整理したことを踏まえて、持続可能性・SDGs に関する議論を展開し、千年に及ぶスケール感で持続可能性・SDGs の理念と意義を考える。また、祇園祭の特色である横の繋がりで培われた人々の暮らしや心のあり方の観点から、SDGs をアップデートするための提案を行う。祇園祭から学ぶことで得られた本プロジェクトの成果については、様々な形で話し合い醸成されていくように、広く発信を行う。

具体的には、京都市による祇園祭創始 1150 年関連企画や、京都大学の持続可能性に関する企画への参画、また、各種マスメディアでの成果報告を行う。

6. 2019 年度のスケジュール

1) 祇園祭の理念及び SDGs の概要・理念の浸透

○準備・協力者募集：2019 年 4 月～5 月

媒体の準備、発信協力者の募集を行う。

○キャンペーン：2019 年 5 月～（10 月）

発信協力者より、各種媒体を活用し、発信を行う。

○18 番目の SDGs まとめ：2019 年 11 月～12 月

応募された内容について、いったん 2019 年度としてのとりまとめを行い、まとめ内容を発表する。

2) 祇園祭及び SDGs の探求

○準備・募集：2019 年 3 月～4 月

記者会見、プレスリリース、参加者募集を行う。

○学習・調査：2019 年 5 月～7 月

キックオフミーティングを行い、グループワークを開始する。その後、ミーティングと全体勉強会を複数回行う。各グループが 1 テーマを担当し、アドバイザーからのレクチャーを受けつつ、祇園祭について過去千年間の歴史や変遷を踏まえて学ぶ。関連資料を分析し、祇園祭にも足を運んで調査を行う。これらと並行して、持続可能性・SDGs についても学習・議論する。

○議論・検討：2019 年 8 月～11 月

学習・調査結果を踏まえて、祇園祭の今後に留まらず、京都、日本、世界のあるべき姿について検討し、持続可能性に関する課題発見・解決を目指したグループワークを行う。必要に応じて、サポーターやアドバイザーの支援を受けながら、レポート等を作成する。

○総括・発信：2019 年 12 月～

12 月に総括イベントを行い、グループワークで作成した「祇園祭の特色を踏まえて考えた SDGs のアップデート案」を発信する。また、各種マスメディアやイベントにおいて成果発信を行う。

7. プロジェクトロゴについて

本プロジェクトのロゴは、2019 年 3 月 8 日に開催された「祇園祭創始 1150 年記念事業」関係者懇親会に参加された関係者より一字（以上）ずつ頂き構成したものである。SDGs のコンセプト「誰一人取り残さない」も受け、全員参加型での本企画推進を体現するものとなっている。

8. 実施体制

・主催：京都大学（エコ〜るど京大）、京都市

問合せ先

・京都大学（エコ〜るど京大）

電話：075-753-5922 メール：ecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jp

・京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課

電話：075-366-1498 FAX：075-213-3366

2019年度の詳細スケジュール（2019年4月3日現在）

日時	内容	詳細	参加
4月3日（水）	記者会見 ウェブサイト公開		
～4月30日	参加者募集		
5月12日（日）13:00-	キックオフミーティング	基礎講義、グループワーク、交流	○
6月1日（土）10:00-	第1回全体ミーティング	調査計画発表、グループワーク、交流	○
6月27日（木）	京大シンポジウム		
7月	祇園祭	グループワーク	○
8月10日（土）10:00-	第2回全体ミーティング	中間発表、グループワーク	○
8月	京都市講座		
9月6日（金）10:00-	第3回全体ミーティング	グループワーク	○
9月	京都市講座		
10月19日（土）10:00-	第4回全体ミーティング	調査結果まとめ、グループワーク	○
10月	京都市講座		
11月	京都市講座		
11月16日（土） 10:00-	第5回全体ミーティング	アウトカム作成、グループワーク	○
12月14日（土）	総括イベント	発表、総括	○
12月	発表		

※参加について、○印は原則全員参加、その他は関連イベント等。

（参考）祇園祭創始 1150 年

祇園祭は、八坂神社社伝によると、貞観 11 年（869）、国内各地で発生した天変地異や疫病の流行を受け、全国の平安を祈るため、当時の国の数である 66 本の矛を立て、神輿が送られた御霊会（ごりょうえ）が起源とされており、本年、1150 年を迎える。

祇園祭は 7 月 1 ヶ月間を通じて催されるものであるが、その中核となる神事は、八坂神社の御祭神（スサノヲノミコトと、その妻、子ども）を乗せた 3 基の神輿が 7 月 17 日に八坂神社から御旅所（四条寺町）に向かい、24 日に神社へ戻るといふ 2 回の神輿渡御で、氏子のいる市中を回る。前祭（さきまつり）・後祭（あとまつり）の山鉾巡行は、ともに神輿渡御と同日の朝から行われ、都大路を清め祓う役割を担っている。